城南離宮は鳥羽上皇寛治元年に造営ありて遷給ふ仙居なり。〔旧地は芹川の北より竹田里を限とす。御所の南北に門ありて、御殿は東面なり。門前は鳥羽街道にして淀に至る、今の道は後世作るなり、御所の地多く田の字とす〕北殿、南殿、田中殿、馬場殿、車殿等の名あり。池の広は南北八町東西六町にして、蒼海を模して中に島を作り、蓬来山を築て巌を畳、舟を泛て帆を飛し、烟浪渺々と棹を飜して碇を下し、春は花の陰にて月卿音楽を奏し、秋は池水に月を湛て雲客秀詠を吟ず。上皇は元来寛仁の御心深うして、里人に牛車を永ゆるしたまふ。又鳥羽殿には宸書の法華を講じ、安楽寿院の定海に命じて孔雀明王の法を修せしむ。されば法皇崩じて忽保元の乱となり、後白河院は此宮に蟄し、夫より次第に荒廃して遂に田野とぞなりにける〕

新　続　古　　なにとなく物悲しくぞ見えわたる鳥羽田の面の秋の暮　　円　位　法　師